

●一般演題 II

座長：独立行政法人 国立長寿医療研究センター 岡村 菊夫

5. 間質性膀胱炎に対する 漢方薬の効果に関する検討

獨協医科大学越谷病院 泌尿器科

○八木 宏、青木 裕章、佐藤 両、小堀 善友
芦沢 好夫、宋 成浩、新井 学、岡田 弘

【目的】間質性膀胱炎の治療は一般に困難で、持続する症状のためQOLが著しく損なわれる。今回、間質性膀胱炎に対して漢方薬を使用し、QOLの改善効果を検討したので報告する。

【対象と方法】2009年10月から2010年9月までの1年間に当科を受診、間質性膀胱炎と診断され一般的な内服治療を行うも十分な改善が得られず漢方薬に変更した10例を対象とした。年齢中央値は73歳（54-83歳）、いずれも女性であった。漢方薬投与前後にIPSS、QOLスコア、影響度スコアによる評価を行い比較検討した。

【結果】10例中6例で症状の改善が認められ漢方薬を継続、他の4例は水圧拡張術、DMSO膀胱内注入などの治療に変更された。

【結論】少数例、短期間の検討ながら間質性膀胱炎に対する漢方薬の効果が示唆された。今後も症例を積み重ねて検討していきたい。

6. 高齢女性に対する八味地黄丸の有用性

横浜元町女性医療クリニック・LUNA・横浜¹⁾

横浜市立大学大学院医学部 泌尿器病態学講座²⁾

○関口 由紀¹⁾²⁾、長崎 直美¹⁾、槍澤 ゆかり¹⁾、畦越 陽子¹⁾
河路 かおる¹⁾、増子 香織¹⁾、窪田 吉信²⁾

八味地黄丸を処方した高齢女性患者の愁訴の改善に関して検討した。対象は、八味地黄丸エキス（ツムラ7.5g/日）を4週間以上服薬できた34症例とした。全員女性で、平均年齢は、64.41歳±18.24であった。4週後に再診した際に、初診時の主訴が改善した症例を有効例、改善がなく他方剤に変更した症例を無効例と判定した。有効例は、26例（76.4%）。無効例は、8例（23.6%）であった。有効例のうち、症例数の多い冷え・頻尿・疲労感・排尿時痛に関しては、60歳以上の患者が86.6%を占めていた。有効例の平均年齢（68.48歳±17.42）と無効例の平均年齢（51.25歳±15.0）の間には、有意差を認めた。（ $P < 0.05$ ）60歳以上の主訴が冷え・頻尿以外の有効例11例のうち、冷え・頻尿のどちらかが随伴症状としてある患者は、11例中10例（90.9%）であった。高齢女性の漢方診察の際は、主訴・随伴症状にかかわらず冷え・頻尿があれば、補腎剤の投与が有効である可能性が示唆された。